

いのち
生命のにぎわい調査団
生命のにぎわい通信

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
(千葉県立中央博物館内)
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

第55号：発行 令和2年(2020年)7月

千葉県に生息するカニ類

今号では、海辺や川などに遊びに行った際に会えることのできるカニ類を取り上げます。生息地が限られる種が多いことから、なじみの薄い方も多いかもしれません。今回は、河川、林や干潟などに生息する様々なカニ類を紹介します。

写真右下は撮影者の団員番号、種名の横の記号は千葉県 レッドデータブック (RDB) のランクです。



甲幅：30 mm

千葉県でよく見られる青いタイプ a0389

サワガニ (千葉県 RDB : C)

河川の上流、中流や湧水などの淡水域に生息する。体色は生息場所により変異に富んでおり、オレンジ色、褐色、青みを帯びた個体や白っぽい個体がいる。



甲幅：80 mm

a0708

モクズガニ (千葉県 RDB : D)

主に淡水域に生息する。ただし、成熟個体は海に降りて繁殖し、孵化した幼生は主に海で育ち、その後、成長した幼生は河川へと遡上する降河回遊型の生活史を持つ。



甲幅：30 mm

a0389

アカテガニ (千葉県 RDB : D)

護岸されていない河口の中州や、海岸沿いの林などに生息する。晩春から夏の産卵期になると、海に降りてくる。



甲幅：35 mm

a0389

ベンケイガニ (千葉県 RDB : B)

河口付近の木の生い茂った石垣など、薄暗く湿った環境に生息する。夕方頃に、海岸林などの斜面を歩く姿がよく目撃される。



甲幅：35 mm

a0389

アシハラガニ (千葉県 RDB : D)

河口のアシ原付近に生息する。成体はアシ原や河口域(汽水域)の川岸に巣穴を掘る。もともとは普通種であったが、アシ原の消失により生息地が縮小した。



甲幅：20 mm

a0034

スナガニ

主に内湾の砂浜に生息しており、よく見られる。動きが非常に速い。大きな目で周りがよく見えているためか、近づくとすぐに逃げてしまう。



甲幅：10 mm

a0389

コメツキガニ (千葉県 RDB : D)

干潟に生息する甲幅 10mm ほどのカニ。6～8月頃には、オスのウェービング(全身で伸びをするような行動)が見られる(チゴガニとは異なる行動)。



甲幅：10 mm

a0389

チゴガニ (千葉県 RDB : D)

干潟に生息する甲幅 10mm ほどのカニ。6～9月頃には、オスのウェービング(ハサミ脚を振り上げては降ろす行動)が見られる。繁殖期には口の周りが青くなる。



甲幅：50 mm

a0389

ハマガニ (千葉県 RDB : A)

河口のアシ原に生息する。昼間は巣穴や倒木の下などに隠れており、基本的には夜行性である。千葉県では希少な種類であり、生息地は非常に少ない。

参考文献

渡部哲也(2014)・海辺のエビ・ヤドカリ・カニ ハンドブック・文一総合出版。
千葉県(2011)・千葉県の保護上重要な野生生物ー千葉県レッドデータブック 動物編ー

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>と「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

古典文学と里山の生き物たちの世界



第九回 トウキョウダルマガエル

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

「古池や ^{かはづ}蛙飛び込む 水の音」

1686 年の春、松尾芭蕉が、深川の芭蕉庵で催した蛙の発句会で詠んだとされる句です。この句を知らない人はたぶんいないと思われますので、句そのものの詳しい解説は省きます。このコラムで迫ってみたいのは、はて一体、古池に飛び込んだカエルの種類は何であっただろうかということです。従来、多数派であったのは、それはトウキョウダルマガエルであっただろうという説です。このカエルは千葉県を含む関東平野、仙台平野、信濃川流域に生息するカエルで、トノサマガエルと非常によく似た姿をしており、しばしば混同されます。

トウキョウダルマガエルは、よく成長すると体長 8cm にも達します。生涯を水のそばで過ごすカエルで、雄は縄張りを持ち、繁殖期には水面で鳴きながら雌を待ちます。岸边にいる時に驚かしたりするとすかさず音を立てて水中に飛び込みますから、生態的にもこの句に詠まれている内容に不自然さはないわけです。しかしもちろん、飛び込んだのは他種のカエルであった可能性もあります。例えばツチガエルです。これは「イボガエル」という別名でも知られる小型のカエルで、やはり生涯、水のそばで暮らします。場所が池であるというのも微妙なところ。繁殖場所として田んぼのようなところを好むトウキョウダルマガエルに対し、オタマジャクシの状態越冬するツチガエルは、冬でも水がなくならない浅い池を好むからです。

もっとも、ツチガエルは体長 4cm 程度の小さなカエル。芭蕉が詠んだのがツチガエルであったなら、水に飛び込む音は極めて小さなものであったことでしょう。個人的には、やはり「ポチャン」とある程度響く音とその余韻を味わうには、トウキョウダルマガエルがふさわしいように思います。元来、河口の低湿地であった水の都・江戸の市中には、幕末に至るまでトキ、コウノトリ、カワウソまでもが生きていたことが知られています（守山他 2016 産物書上帳記載の魚名を基にした近世農民の魚種識別知識の検討）。それらの餌となるカエルも、さぞかしたくさんいたに違いありません。



作 石田 理紗

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

調査対象種：セミの仲間、ヒガシホントカゲ、サワガニ、ヤマユリ、オオフサモ（特定外来生物）

調査対象種以外

- * 渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類
- * 各種昆虫（特にトンボ・チョウ）、両生類、爬虫類
- * 希少生物（生息・生育数が減少している生物）、外来種の報告も受け付けています。

＜にぎわい調査団 第 1 回現地研修会が中止になりました＞

6 月 20 日、23 日に勝浦市で開催予定だった現地研修会は、新型コロナウイルスの影響により、残念ながら中止となりました。今年の秋にも現地研修会を企画予定ですので、どうぞお楽しみにお待ちください。

＜令和元年度 生命のにぎわい写真コンテスト結果報告＞

団員の皆様の応募作品 32 点から最優秀賞と優秀賞が決定しました。



【最優秀賞】 長妻 輝夫
「エナガの子育て」



【優秀賞】 池田 日出男
「キセキレイの離れ業」

今年度も「にぎわい写真コンテスト」を開催する予定です。ぜひ、生き物の『生命のにぎわい』を写真に収め、コンテストへのご応募をお願いします。